

校長の想い7月

## 一 級 品

島にハマカンゾウの花が咲く季節になりました。夏の訪れです。今年は、コロナも落ち着いてきましたので、たくさんの来島者で村中が潤うことを祈念します。

さて、私がかつて勤めていた学校の近所に、ある老舗の煎餅屋さんがありました。

お店にはよく行きましたが、私が買うのはいつも「壊れ煎餅」でした。袋詰めで値段が安いので、そればかり買ってきては食べていました。

「壊れ煎餅」は、煎餅を作る工程で形が変化したり、割れてしまったりしてとても商品としては出せないものを寄せ集めて袋詰めにして売っている物です。

形は悪いが、値段が安いというえに、味は「一級品」です。私のようにそれを買って食べた人は、やみつきになって食べるわけです。

実は、「壊れ煎餅」でない煎餅は神津島でも売っています。懐かしさについつい買ってしまいました。

味は「壊れ煎餅」と同じでした。製造の過程で何も起こらずに仕上がると一枚ずつ個包装にされて、このように立派な商品として世の中に出されるわけです。

私は若いころから、そのような立派な商品でなくても良いから「壊れ煎餅」のようでありたいと思っていました。

「壊れ煎餅」と言っても、形こそ壊れているが、味は「一級品」でなければなりません。味が「一級品」であることにこだわりたかったのです。

何故生徒は、ここでつまづくのか？どのように説明すれば理解してもらえるのか？

生徒に「なるほど、そういう事だったのだ！」と言わせたくて、自分なりの形になってきました。

まだ味が「一級品」であるかどうかわかりませんが、またいつか子供たちに「この煎餅は美味しい！」と言ってもらえる授業が展開できるようにと今でも考えています。